

整理番号	02-1105
区分 (事務局記入欄)	☐ 臨床研究(☐ 受託・共同 ☐ 院内) ☒ その他
	☐ 医薬品 ☐ 医療機器 ☒ その他

医学研究に関する情報公開文書

西暦 2026年 5月 28日

研究課題名	骨脆弱性 THA 症例における近位大腿骨 calcar 部 HU 値と大腿骨骨折発生との関連
研究実施期間	開始 西暦 2026 年 7 月 1 日 ～ 終了 西暦 2027 年 3 月 31 日（予定）
研究の対象となる方 (予定症例数)	2024 年 2 月から 2026 年 4 月までに同一術者が Modified Watson-Jones アプローチによる THA を施行した症例のうち、①75 歳以上、②YAM 値 80%未満、③骨粗鬆症の既往あり、のいずれかを満たした 36 例
研究の目的・方法	骨脆弱性を有する THA 症例では術中・術後大腿骨骨折が問題となります。術前評価として広く用いられる Dorr 分類は単純 X 線による形態評価であり、実際の局所骨質を反映しない可能性があります。本研究は、骨脆弱性 THA 症例において術前 CT の Hounsfield Unit (HU) 値を用いた近位大腿骨 calcar 部の局所骨質評価と骨折発生との関連、および Dorr 分類と calcar HU 値の相関を探索的に検討することを目的としました。
研究に用いる試料・情報の種類	Dorr 分類は 2 名の独立した観察者が術前単純 X 線正面像で評価し、不一致例はコンセンサスにより確定した (Cohen' s kappa=0. 617)。術前 CT コロナル再構成像（スライス厚 2mm 以下）を用い、小転子上縁レベルの大腿骨内側皮質内縁から 2mm 内側の海綿骨内に円形 ROI（約 100mm ² ）を設定し mean HU 値を測定します。
問い合わせ先	・ 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ・ ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 ・ また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 地方独立行政法人市立東大阪医療センター 研究責任者：整形外科・主任医長 齊藤謙一郎 住所：大阪府東大阪市西岩田三丁目 4 番 5 号 TEL:06-6781-5101